

●子ども・子育て支援事業計画（第2期）改定素案について

番号	意見	対応案
1	<p>「資料6 葉山町子ども・子育て支援事業計画（第2期）骨子」に重点施策（主な内容）としてあげられているものの、個別の支援事業につながっていない項目がある。</p> <p>特に追加項目として追加された施策については、より明確に対応方策を示すべきであり、「資料4 地域こども・子育て支援事業の対応案について」の中で対応を位置づけるべき。</p> <p>例えば、「男性の育児参加の促進」、「家庭や職場などでの男女共同参画意識の醸成」について、本計画では何事業で取り組んで行くのかがわからない。この報告書案のまとめ方で「促進」「醸成」では、実効力がない。できれば資料6の表で、重点施策（主な内容）をどの事業で実施するか紐付けしてほしい。</p> <p>【提案】 「男性の育児参加の促進」、「家庭や職場などでの男女共同参画意識の醸成」について前回会議で父子手帳の話もありましたが、こうした父親準備を促す取り組みを提案します。</p> <p>具体的には</p> <ul style="list-style-type: none"> ①父親としての自分自身の準備 ②働き先の事業所としての準備があります。 <p>①について 昨今の児童虐待のニュースにおいても父親が乳児を虐待するケースも多く見受けられます。子育てをする心構え、準備がしっかりできていれば、産後の母親にとっても心強いはずです。</p> <p>②について 父親の育児休暇の取得が進むことが望まれますが、国や会社側の制度は整ってきているものの、取りにくい現状があります。従業員である父親が早めに事業所に予定日とそれに伴う育児休暇の希望を伝えることが重要です。</p> <p>母親は安定期頃に出産の意思を会社に伝えますが、男性社員の子供がいつ生まれるかを事業者側が把握する仕組みが無く、準備期間がなければ事業所も対応できません。</p> <p>例えばですが、現在行なっている両親教室ではなく、父親教室の開催を提案します。</p> <p>妊娠が判明したら早い段階での父親教室を開催し、①②の準備の重要性を伝えるべきと考えます。</p> <p>【最後に】 子育ては、まず親に一義的責任があります。本計画で実施される支援計画・支援事業は、ほぼ全て母親をサポートするものばかりであります。父親が子育てを行なう社会となれば女性の社会進出や高齢化社会への対応など意義が大きいですと考えます。</p>	<p>計画中P20～P23の基本目標の重点施策の中で事業を記載しました。</p> <p>①計画中P52の「13 子どもに関する専門的な知識および技術を要する支援等」の中の3つ目の丸に産後ケア事業の実施を記載しました。</p> <p>②計画中P53の「14労働者の職業生活と家庭生活の両立のための雇用環境の整備に関する施策との連携」の中の2つ目の丸にプレママやプレパパ教室の記載をしました。また、3つ目の丸に企業等への育児休業等制度の周知の項目を記載しました。</p>

資料2

●子ども・子育て支援事業計画（第2期）改定素案について

番号	意見	対応案
2	<p>病児・病後児について、病児は、保育園等では預かれな い。別途考えるということなら病児と病後児を切り分けて 表現したらいたがでしょうか。</p>	<p>見込み量を分けることが できないため現状とお り とします。</p>
3	<p>保育施設の移行等により、待機児童の解消につながる という方向性が示されたように思うが、10月からの保育園無 償化に伴い、就労を希望する保護者（特に母親）が増加し た場合、さらなる待機児童の増加につながってしまうの ではないか。</p>	<p>国の指針に基づく見込み 量では2号の見込み量が 減少しているものの、母 親の就労率の上昇に対応 するため、確保方策とし ては増加を見込んでいま す。</p>
4	<p>子育てとは、非効率的で、すぐには成果が現れないもの だと思います。お子さんと、そのご家庭はみな異なってい てそれぞれに応じた支援が必要です。 施設や予算などを含めた事業計画は重要ですが、そもそも 数字で測ることのできない（子どもや親の）心や気持ちの 支援を考えた計画になると良いと思います。妊娠出産か ら、両親での育児、病児・病後児保育、貧困、虐待、放課 後対策、発達支援・・・いろいろな課題は、入り混じって 子どもたちを取り巻いています。 子どもたちは、みんなそれぞれ個性的で、それぞれ特別に 目も手もかけて欲しい存在です。特に何かがあるからでは なく、どの子のことも同じ目線で見守り、支援できる体制 ができないものでしょうか。</p>	<p>子どもと親に少しでも支 援できる体制を充実して いきます。</p>